

平成24年度 第5回石巻市震災復興推進会議 会議録

日時：平成25年2月17日（日）
午前9時30分～11時40分
場所：石巻市役所庁議室

【出席委員 23名】

氏名	所 属	備 考
浅野 亨	石巻商工会議所 会頭	
渥美 克之	牡鹿地区住民代表	
阿部 勝治	桃生地区住民代表	
阿部 洋子	石巻市民生委員・児童委員協議会 会長	
石川 壽一	いしのまき農業協同組合 代表理事組合長	
伊藤 和男	特定非営利活動法人石巻市体育協会 会長	
浮津 文好	河北地区住民代表	
尾形 和昭	株式会社街づくりまっぽう 代表取締役副社長	
小野田 泰明	東北大学大学院工学研究科 教授	副会長
兼子 佳恵	環境と子どもを考える会 代表	
久門 俊勝	社団法人石巻市医師会 副会長	
後藤 宗徳	社団法人石巻観光協会 会長	
西條 允敏	石巻市文化協会 会長	
佐々木 文彦	北上地区住民代表	
永沼 紀男	石巻地区住民代表	
馬場 利一郎	石巻市身体障害者福祉協会 会長	
藤井 勝	貞山三・四・五丁目自主防災会 会長	
丸岡 章	石巻専修大学 理工学部長	会長
森岡 精一	社会福祉法人石巻市社会福祉協議会 事務局次長	
山上 勝義	石巻市仮設住宅自治会連合会 副会長	
山崎 信哉	石巻市仮設住宅自治会連合会 会長	
吉田 薫	雄勝地区住民代表	
吉田 忠美	石巻市町内会連合会 会長	

【欠席委員 2名】

阿部 力太郎	宮城県漁業協同組合 代表理事理事長	
高橋 和子	河南地区住民代表	

概 要

- 1 開会【9時30分】
- 2 あいさつ（会長）
- 3 議事

○丸岡会長 今回が今年度最後の会議となるが、市民からの要望のとりまとめをしたい。震災前の姿に戻そう、あるいは、それ以上にするということを目指して、一年間務めさせて頂いたが、行き届かないこともあった。最後なので、これまでの質疑応答をより詳しくまとめた形で、市から説明いただく。この会議に対しても意見があったら、来年度に向けて、意見をいただきたい。

(1) 提案（意見）に対する対応状況について

- 復興政策課主幹 （資料1の説明）
- 委員 追波川運動公園の現状復旧ということは土のグラウンドか。前の会議でも話をした

が、全天候のグラウンドに変えられないかどうか検討願いたい。

○**教育委員会事務局長** 一番の問題は財源であるが、復旧という形で以前の状態に戻す分は財源を確保している。それを上回る整備には3億円程度かかり、現時点では厳しい。今のところ、復旧をして使っていきたいと考えている。

○**委員** 市の財政状況はわかっているが、市の持ち出しではなく、どこかで支援をいただきながら整備できないか。当方の調べでは1億5千万円程度で全天候型グラウンドを整備できる。ぜひ検討願いたい。

○**委員** 復興公営住宅事業に対する増員によって、どれくらい復興が進捗するのか。

第2、3次障害計画に対するパブコメを聞いているが、やはり、心配しているのは、復興公営住宅について、全戸をバリアフリーにしていってほしいというものが来ている。

職員の不足は承知しているが、復興公営住宅の整備について、福祉関係の部署とどの程度協議をして進めているのか。

○**総務部長** 職員の増員について、現在の状況は資料10ページのとおりであるが、計画ベースでは、復興事業全般を進める上で160人程度必要である。2月1日現在では120名、新年度はもう少し確保するというところで進めている。今後もニーズについて精査したい。

○**復興住宅課長** 福祉部局との協議について、復興住宅の設計にあたっては、復興住宅WG（ワーキンググループ）で庁内及び庁外との調整を進めており、福祉部との調整も行っている。その中では、バリアフリーや緊急システムなども検討している。

○**委員** 復興住宅のバリアフリー化は、新しい住宅の方向性を示すものであり、石巻方式として、将来の統一した基準を固めていただく上でも、強力をお願いしたい。

○**小野田副会長** 復興住宅WGの座長をさせていただいている。復興公営住宅の在り方については、福祉部局と協議をしながら検討している。

他の自治体と比べても、石巻市は積極的に徹底を図っているが、徹底を図りすぎると、コストの面や、地域特性等において難しい側面もあるので、どのように実行できるか、検討している。また、整備すべき量が極めて多いため、なかなかすべてを組むのが困難ではあるが、ご指導をお願いしたい。

○**丸岡会長** マンパワー不足160人のうち120人は確保しているということだが、人が足りないといわれている中、120人満たして、だいぶ充足しているように思える。市役所の職員は、我慢強く頑張っているが本当に大丈夫か。

○**総務部長** 震災復興部をメインに、支援職員を投入している。土日も含めてワーク的には厳しい状況である。

新聞でも報道されているが、準備が整っても、契約の関係等で、次のステップに進めない。

目に見える形で進まないというのは、ストレスになる。メンタルヘルスについても、対応しつつ、目に見える形で復興を進められるよう尽力したい。

○**委員** 短期間の任用について、自治体から派遣されている職員が元の自治体に戻っていくのではないかと、心配している。

○**総務部長** 実際、年度末に派遣元に戻るというのは多い。また、期間が3ヶ月間というものもある。職員派遣を協議していく中で、震災の影響だけではなく、建築・土木という分野は全国的に不足しているため短期間の派遣となっている。

期間についても、できるだけ長期にできるよう、進めていきたい。

また、経済対策、公共団体の事業により、戻されるかもしれない懸念はあるが、個

別に対応していく。

○丸岡会長 まだ質問等があると思うが、最後にまた聞きますので次の議題に移らせていただく。

(2) 震災遺構について

○復興政策課主査 (資料2の説明)

○委員 大川小学校の件で大川地区で住民の集会有り、地区として意見をまとめるということで集められたが、大川地区の住民としては、7～8割が残さないで撤去した方が良いのではという意見であった。現在、大川小学校の保存に関しては、どのように進んでいるか伺いたい。

○復興政策課長 大川小学校については、地域の意見を尊重するというので、市の結論としては決めていない。地区の意見を踏まえながら決定していきたい。

○委員 震災遺構保存対象物集計として、仮埋葬地の7箇所というのは、数が多い気がするが。

○小野田副会長 東北大学産業科学国際研究所連携プロジェクトでやっており、その教授として答えさせていただくが、科学的な線引きが難しく、メンバーが現地に行き仮埋葬したことで当時困難を極めものとしてピックアップしたものである。

○生活環境部長 仮埋葬について、現状に復旧するというを前提に所有者と協議をした上で場所を選定した経緯があり、2箇所はすでに戻している。

○委員 衝撃的な事実なので、残すべきという意見はあるが、7箇所残す必要はあるのか、アーカイブ施設として残すべきかなとも思う。

○丸岡会長 あくまでも、これの意見を参考にして、石巻市で意思決定をして行くというものである。

○小野田副会長 防災教育で怖いのは忘却であり、忘却させないために保存し、教育なり文化に位置付けることが効果的である。

仙台市では、運営管理面でランニングできるか否か、ソフトウェアを残せるか否かの検討をしている。全部は残せないからアーカイブみたいな形で残そうという検討を石巻市でも同じようにしていただければ良いと思う。

○委員 犠牲者が出ていない場所については、保存する検討の価値はある。犠牲者が出ていない場所は、遺族とも協議しなければならないのではないかと。

○浅野副会長 研究会に対して、石巻市のスタンスとして検討している部分はあるのか。あるとすれば、判断を早くできるようにし、せつかく残った施設を解体というのはあり得ないと思うが、現在の検討状況を教えていただきたい。

個人的には、仮埋葬跡地は残すのはいかなものかと思う。

○震災復興部長 震災遺構に関しては、震災復興部で担当している。

意見交換はまだやっていないが、大川小学校は住民意見を聞きながら、門脇小学校も地元意見、観慶丸も教育委員会と検討中である。ハリストス正教会は移設するという方向であるが、文化財として現地を含め検討中である。

ホエールランドは、解体して、別な場所に新しい施設を持ちたいと考えている。

他は、具体的な検討はしていない。

これらの研究会の意見を参考に、どういったものを残すか検討していきたい。

○丸岡会長 大川小学校と門脇小学校をペアで、合理的な判断をして欲しいという意見も多いと思う。

ここでは、門小に対して意見を頂きたい。

- 委員 非常に難しいところだが、残すことに賛成したい。学校に残った生徒は、すべて無事だったので、大川小学校と対極的である。
戻ってきて亡くなった方はどれだけ居たか分からないが、居住地域だから住民の声は大事である。
現状としても被災地を見に来る人は、門脇小学校が多い現状がある。
良いか悪いかは別として、被災を感じられる場所であることは間違いない。また、学校を移築するのが可能かどうか分からないが、シンボリックなものが必要であると考えられる。
- 委員 保存すべきだということに賛成意見である。広島ドームも遺族から残さないでという意見はあったが、最初は反対していた遺族も残して良かったという意見になった。
遺族の意見としては、残して欲しくないのが多い。長い目で見た場合、風化してしまうことから現物を残して、後世に伝えるべきだと思う。
- 委員 震災遺構は、難しい問題でありどっちも正しいのかなと思う。大切なことは未曾有の震災を忘却させないために、我々は何をすべきかということであり、当時の風景、記録を蘇らせると、亡くなった方には申し訳ない。
しかし、それを尊重した場合、写真では教えることができないもので、風化させずに後世に伝えなければならない。
他の地区も見てきたが、何を伝えようとするのか写真ではわからない現実を残すというのが生きた教育ではないか。
- 委員 解体に賛成する意見であるが、現場を一番見てるのは、私であると自負している。
自分は、同校の卒業生として小さい形で残すのはいいが、現在、高校生が入って遊んでいる。その現状を踏まえ、その上での長期的な視野をもって判断して欲しい。
- 委員 大川小学校についてであるが、地域の意見を聞いた。
父兄、一般の方は、最初は見たくもない、撤去すべきだという意見が多かったが、一歩下がって、防災や鎮魂という観点からシンボルとして残してはと提案すると、そうであれば、ほとんど全員が残すべきではという意見となっている。
- 丸岡会長 まだまだあるかと思うが、次の議題に移らせて頂く。

(3) 震災復興基本計画実施計画について、(4) 主な復旧・復興事業全体行程表について

- 復興政策課大塚課長 (資料3・4の説明)
- 丸岡会長 資料が膨大であることから、住いとか産業基盤、道路・下水道、その他ということでテーマごとに意見を頂きたい。
まずはじめに住まいについていただきたい。
- 委員 資料4の7～8ページ、防災集団移転促進事業で半島部の計画が載っているが、計画戸数として予定している戸数を何かに載せているものはないのか。
復興基本計画に位置づけしているものはあるのか伺いたい。
- 集団移転対策課長 細かい数字は、今後のいろいろな資料でお示しするよう、準備している状況である。
- 委員 地域のコミュニティの再構築が迫られている地域にとっては、防災集団移転促進事業の移転戸数等がわかれば非常に有効な情報である。
今後、この会議の中かどうかは別として、まとまった段階でお示しいただければ幸いなのでよろしくお願ひしたい。

○小野田副会長 防災集団移転促進事業の移転戸数等は、正確な数値を把握していかなければならないので市報等に載せるには非常に微妙な情報である。

問題となっている、戻ってくるとかいう人口の話は、意向調査をするたびに変わってくる。

先般、雄勝地区でがんばっていこうという話になったが、それぞれの高台移転の人数が少なく、高齢化率も高いので、集約の合意を取り付けたものである。

これから難しい局面が出てくると思うので本庁の方でも、総合支所を支えて、バックアップして欲しい。

○丸岡会長 深刻な問題でもある。報道でも出ているので集約しなければならないことから早急な対策をお願いしたい。

○市長 雄勝・鮎川・北上については、アンケート調査をするたび数字が変わり、計画の変更を余儀なくされることもある。

しかし、決断すべき時期であると思っており、総合支所に全て任せるわけではなく、本庁もしっかり取り組んで行くのでよろしくをお願いしたい。

○委員 2年経が経ちデータとして示すつもりもないが、情報として、被災者が仮設に抽選で集まったため、当初コミュニティがなかった。2年以上経つと人の心も変わってくる。

これからのコミュニティづくりが一番大事であり、何度調べても人の心情は変わる。ある時期での決断は必要だが、決断した結果は押し付けではなく、新しいコミュニティができ、そのコミュニティ作りへの支援はとって大切であると思う。

適当に抽選でやるのではなくて、総合的に考えて、ある程度の状況を踏まえて、コミュニティ作りをお願いしたい。

○丸岡会長 ハードだけではなく、そこに住む人、コミュニティも作り上げていかないと機能しないということかと思う。

○委員 市街地まちづくり事業、防災集団移転事業の計画は良いが、新聞等で所有権の移転が難しいと出ているが石巻も同様か。

防災集団移転促進事業で作ってみたものの、移転しないとあまるというのは問題なので、無駄な投資をしないようにお願いしたい。

○集団移転対策課長 半島部については46地区の団地造成を予定しており、今年度は9か所が工事に入れるような状況である。ここまでかかったのは、適地を選定していく上で、相続の問題等で時間がかかった。

今回の場所は、所有権の問題がない箇所であり、今後についてはスムーズに行くものと考えている。

○委員 市報の「復興の土おと」で、谷地公民館が直ることで喜んでいる。

大川地区が約700戸のうち458個が流された。全て危険区域になってしまって、400戸以上が防災集団移転で二子地区は300戸移転する。

以前から小中学校を残してくれと要望しているが、中学校は今年の4月から統合であり、小学校は決まらず、なかなか進まないので早く決めてもらいたい。

その状況をお知らせいただきたい。

○丸岡会長 只今の意見は、質問を受けたという扱いにさせていただく。

それでは、「住い」の分は以上にさせていただき、「産業関係、下水道、道路」その他のテーマについてご意見、ご質問をお願いしたい。

○委員 総合的な質問であるが、市報を見せてもらい事業において茶色い（荒れた土地）のを緑（緑化事業）にいつできるのか、基本計画にも抜けており、緑化事業というの

が入っていない。

- 震災復興部長** 緑化事業をどうするというのはないが、公園の緑化事業があり、南浜地区とか中瀬公園、防災緑地公園ということで湊と長浜に予定している。さらに北上川の水辺の緑のプロムナードで緑化的な取組は考えている。
- 生活環境部長** 現状として、緑化の申し出はボランティア等から話しが来ている。木を植樹する場所がなかなかない状態であり、復興事業の中で進めていきたい。
- 委員** 説明は十分にわかるが、想像以上にひどい。がけ、山崩れなど、環境基本計画で緑化の部分も入っている。市民の要望なので強力に進めて欲しい。
- 丸岡会長** 復興庁の支所長さんから何かないか。
- 宮城復興局石巻支所長** 直接、緑化という事業メニューにはないが、石巻市としてどのような考えがあるかを聞いたうえで復興庁としても協力していきたい。
- 委員** 大変な事業量でもあり、これらの事業については、用地買収が多く、用地交渉が終われば6・7割完了とも言われていることから、早く着手し、事業を進めていただきたい。

また、地域の皆さんの意見も聞きながら、用地交渉に入ることも必要である。
なお、復旧・復興は復興庁だけではなく、まちづくり・緑化を合わせ、全体として国の方針を持って欲しい。
- 委員** 安全・安心、防災というところで、高盛土道路、堤防ができるまでに何度も地震があつて、随時避難を繰り返している。

実際の避難が出来るようになってきているが、避難場所、避難ビル・避難タワーがないという状況が続いている。
現段階で避難できるビルとかがあれば良いと思っている。例えば、中瀬からは、昭栄パーキングが解体をしており、羽黒山とか日和山ということになっているが、現実的ではなく、むしろ「漫画館」に居た方が安全である。
街中も湊地区もそうだと思うが、現段階で何らかの避難のあり方、防災無線についても、改善されたと思うが、いまひとつ進んでいないように思う。安全を確保するというので、ぜひ地域の皆さんと一緒にやれるよう、よろしくお願ひしたい。
避難タワーが出来たときに、展望台としての活用の仕方も検討し、縦割りの部分を越えられる環境づくりをしていただきたい。
- 丸岡会長** 只今の意見については要望ということで受けさせていただく。

最後に、その他ということで何かないか。
- 委員** 石巻市の中で、かなり温度差がある。

当たり前前の生活ができる人とぎりぎりの生活をしている人たちの差を埋められるような議論ができると有難いと思う。
- 委員** 質問であるが、シーサイドマラソン、ふれあいマラソンを20数年間行ってきた。

震災の影響で中止となったが、今年あたりやる計画はあるか。
- 教育委員会事務局長** シーサイドマラソンは、ふれあいマラソンということで場所を南境をコースとして実施してきたが、ベースとした場所の住宅地や工事車両により、安全の確保が難しく中止させていただいた。

現在においても改善されない状況であり、以前の形での実施が困難であるが検討中である。
- 委員** 色々な方々からの支援に対する感謝を表すことと、復興に向け頑張っている姿を世界に発信するためにもマラソン大会が必要ではないか。

震災復興チャリティマラソンみたいにして、続けられないか検討して頂きたい。

○丸岡会長 資料の量も多い中ですべての意見を聞くことができないが、何かあれば書面で質問などを市へ提出頂きたい。

市からは主にハード面の説明であるが、委員からはソフト面についても人間に焦点を合わせた活動も必要ではないかとの意見を受け、その点についてもきちんと目を向け続けて行きたい。

(5) その他（復旧・復興の現状について）

○復興政策課主査（資料5の説明）

4 その他（平成25年度会議日程について）

○復興政策課長補佐（資料6の説明）

5 閉会あいさつ

○浅野副会長 会を重ねるごとに前向きな意見が増えてきた。皆さんも大きな話はわかってきたと思うので、身近な点についても色々な話が出るよう存在感を高めていきたい。

私自身、港づくりや道路など大きなインフラの話は異論はないが、これからは個人財産にかかわる話が出るので担当者は大変だと思う。

今後は、石巻市民みんなでがんばって行くんだというような形でお願いしたい。

出席の皆さんも市民への啓蒙も併せて行いながら、良いまちを作れるように、緑についても、すばらしい石巻地域になるようにこの会の存在を高めて行きたい。

6 閉会【11時45分】